

白内障とは

目のレンズ(水晶体)のタンパク質が変性して白く濁る疾患です。

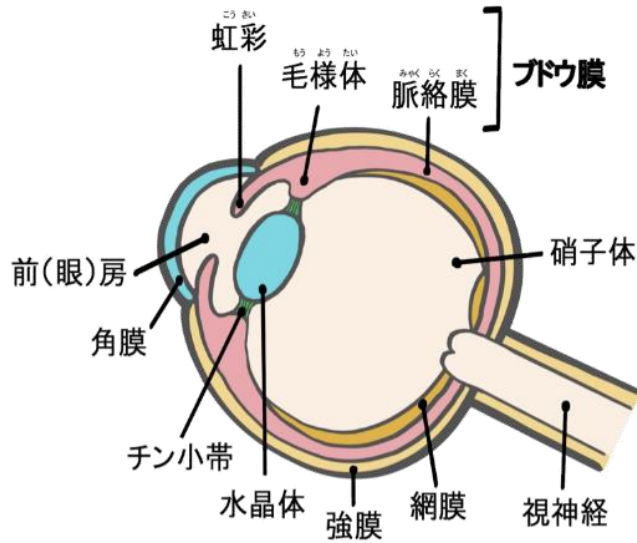
《分類》

- 先天性:生まれつき白内障になっている状態。
 - 若齢性:2歳までに発症することが多い。
 - 老齢性:6歳以上の発症が一般的とされています。
- ※年齢に関係なく、糖尿病の合併症や外傷などによるものもあります。

《症状》

- 黒目の部分が白く濁る(初期では気づきにくいです)
- 夕方や夜に足を踏み外すことがある

レンズが白くなるだけでなく、網膜剥離やブドウ膜炎、さらには緑内障を合併することがあります。



《診断》

目にスリットランプという専用の検査機器の光を当てる『細隙灯検査』を行います。そのほかの合併症が無いか調べるために様々な目の検査を行うこともあります。

《治療》

◆点眼薬

初期の白内障であれば、点眼薬で進行をゆっくりにすることが見込めます。症状が進行している場合、ブドウ膜炎などの合併症を防ぐために毎日点眼を行います。

◆外科手術

水晶体を除去し、眼内レンズに差し替える手術です。専用の設備や専門的な知識・技術を要するため、眼科専門医のいる動物病院で行われます。白内障以外の目の疾患があると手術は行えないため、事前に検査で調べる必要があります。また、手術は全身麻酔になるため眼科以外の全身疾患が無いかもしっかり調べます。術後も頻繁に通院したり、毎日の点眼が欠かせないため、本人が許容できるかどうか判断材料となります。

《白内障に似ている『核硬化症』とは》

レンズ内の水晶体線維が加齢とともに凝縮する状態で、白内障同様「目が白くなってきたかも」と気付かれて来院する子が多いです。

白内障と異なり視覚を失ったりすることはなく、治療も必要ないものです。白内障の診断時には核硬化症との区別が大切です。